平成２９年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立仲町小学校　教諭　大久保　智子

１　派遣期日　　平成２９年８月２１日（月）
２　研 修 先　　学校名（会場名）東京学芸大学附属世田谷小学校
　　所在地　東京都世田谷区深沢４－１０－１
　　http://www.setagaya~es.u-gakugei.ac.jp/
３　研修内容　　夏の教育セミナー　音楽・学校図書館
　　音楽ブックトークをつくろうー学校図書館と音楽室でつくる鑑賞の授業ー

（１）授業公開　１学年音楽の授業を参観

音楽の鑑賞の授業をより楽しく，音楽の世界をより深く味わうために，世田谷小学校では，聴かせたい音楽と関連のある本を次々と紹介していく「音楽ブックトーク」を「鑑賞」の学習活動に取り入れている。この「音楽ブックトーク」には，物語のあらすじとその中で鍵を握っている音楽を一緒に聴くタイプ，テーマに沿って，物語や音楽で綴っていくタイプなどがあるという。今回の実践は，絵本の中に具体的な曲が描かれておらず，緩やかなテーマのもと，音楽や絵本を並べて紹介するタイプである。今回は１年生に親しみのある「動物」をテーマに，曲と絵本を次々と紹介しながら授業が進められた。

○導入では，「《動物の謝肉祭》よりフィナーレ」を聴かせ，「わくわくする」「遊園地みたいで賑やか」などといった感想（イメージ）を子どもたちから引き出し，テーマと音楽をつなぐきっかけとしていた。

○導入の後，物語に子どもたちが十分に浸れるよう，１冊の本をじっくり読み聞かせした。その後で聴かせた「おどる子猫」の曲は，あえて途中までしか聴かせず，子どもたちからは「もっと聴きたいのに！」という声が聞かれた。その後，この曲と関連した猫と悪者であるゴリラが出てくるお話を紹介した。しかし，これも続きが気になるところで終わりにした。子どもたちは続きが知りたくてたまらない様子だった。ゴリラがお話の中で悪者として出てきたタイミングで，悪者をテーマとしたお話を次々に紹介していった。さらに，「《ペーターと狼》より　狼あらわる」という曲で，「怖い動物が近づいてくるような感じ」というイメージを子どもたちから引き出したところで，先ほど途中でやめたお話を読み聞かせた。子どもたちが先ほどまで抱いていた悪者のゴリラのイメージが，読後がらりと変わり，さらに悪者と捉えられがちな狼や狐などの動物が，実は優しい動物という設定で出てくるお話をいくつか紹介した。児童が飽きる暇もないといった軽快なスピードと話の展開の意外さで，盛りだくさんかと思われた多くの曲と本が次々と提示されながら，授業が進んでいった。

○ブックトークを取り入れた授業の後は，司書教諭が授業で紹介された本を紹介した図書だよりを作成し，児童に配布しているという。実際に本時の分の図書だよりも目にすることができた。紹介された本を保護者にも伝えることで，家庭でも話題にすることができ，本を選ぶきっかけにもすることができる。

（２）講演 都留文科大学非常勤講師 杉山悦子先生

「音楽と図書館ー社会における活動を中心にー」から

○音楽と図書館は異質なものと思われがちだが，映画に音楽が必要であるのと同様に，本と音楽は共存するものだという。

○栃木県立図書館のレコードコンサートについて紹介された。音楽教育が規制されていた戦時を経て，戦後の音楽鑑賞活動の足掛けとなったこの取り組みは，図書館における音楽コンサートが，閉ざされていた人々が心を開き，人どうしの交流のきっかけにもなったと考えられる。

（３）ワークショップ「音楽ブックトークをつくってみよう」

○図書室へ移動し，グループに分かれて実際に音楽ブックトークを作る活動を行った。１年生の授業をするということにし，授業の流れを話し合った。

＜授業の流れ＞　対象　１学年　テーマ「きこえる？」
１．絵本から音を探す。
　「きこえる？」（読み聞かせをする。）
　「ぼくのいちにち　どんなおと？」（物語を紹介する。）
　「りりりりり」（物語を紹介する。）
２．お話に出てきた「ウッドブロック」を実物を見せたり，鳴らして音を聴かせたりして紹介する。
３．ウッドブロックが使われている楽曲**「シンコペイテッド　クロック」**を聴かせる。
４．**「もりのおとぶくろ」**の物語を紹介する。
５．「天気の音」をお話から見つける。
　「みずたまレンズ」（物語を紹介する。）
　「あまつぶ　ぽとり　すぷらっしゅ」（読み聞かせをする。）
６．「雨粒」に関連した楽曲**「雨だれ」，「あめふり」**を聴かせる。
７．身の回りの生活音のイメージを広げて，学習のまとめとする。

○各班ごとの代表者が，曲を流したり，本を紹介しながら授業の流れを説明した。どの班も，５冊程度の本と３～５曲の楽曲を取り入れたブックトークの授業を作ることができた。

４　感想

○今回のこの研修に参加する前は，音楽とブックトークがどのように結びつくのか想像も付かなかったが，この授業を参観したり，実際に音楽ブックトークをつくる活動を通して，音楽と本を結びつけると，１年生でさえも，音楽を聴くだけでは味わえないような深い部分までも聴き取ることができることが分かった。

○授業を受けている１年生は，先生の問いかけに対し，手を挙げることなく，次々に発言していた。口々に意見が出ていたが，決してうるさくなったり，友達の話を聞かずに関係ない話をしたりする児童はいなかった。話し方だけでなく，聞き方の指導も十分されているのだと感じた。

○これだけ多くの曲と本を児童を飽きさせることなく提示するためには，曲と本の選び方も大変重要であり，そのためには教師が十分に曲を聴き，聴かせたい曲を精選したり，さらにそれと組み合わせる本についても考慮しなければ，このブックトークの授業は成功しないと感じた。

○音楽を聴く，感じたことを発表する，お話を聞く，また音楽を聴くなど，学習活動の「静と動」がはっきりし，めりはりのある授業だった。このような授業では，児童が何をすればよいかを明確であるため，学習意欲が継続することが分かった。

○このような音楽ブックトークでは，この世田谷小学校のように，司書教諭と連携し，本を探す際に協力を得られる環境があれば実践しやすい。しかし，担任が一人で行う場合も，インターネットなどを活用すれば，曲や本を探したりするのが簡単にできると思う。

○授業者によると，音楽と本を組み合わせると，音楽にはあまり興味を示さないような児童でも，お話や絵が加わるとことで分かりやすくなり，興味をもって授業に参加できるという。実際，音楽があまり好きでなく，授業中落ち着きがないと聞いていた児童も，このブックトークでは，数多く発言し，生き生きと活動していた。このことから，他の教科でも，このように別の手立てを加えることで，児童がより分かるようになったり，さらに楽しく学習できるようになることはたくさんあると思う。授業の質を高め，児童が分かる喜びを実感できるような授業をめざして，今後も研鑽を積んでいきたい。